

## ベトナム共和国ホンバン国際大学との大学間締結による海外派遣授業の展開

松井由美子<sup>1)</sup>、塚本康子<sup>1)</sup>、中山和美<sup>1)</sup>、佐藤信枝<sup>1)</sup>

1) 新潟医療福祉大学 看護学科

【背景・目的】N大学では国際交流の指針としてアジア諸国との交流促進が掲げられており、タイやフィリピンとの交流が盛んに行われている。2013年にはベトナムのホーチミン市にあるホンバン国際大学からN大学看護学科との大学間国際交流締結の申し出があり2016年に正式な学術協定を結んだ。協定内容として「両大学間の単位の互換性の検討」、「継続的な看護技術の提供」、「学生と教員の相互交流」、「共同研究の実施」、「双方のデータの共有」が盛り込まれた。本研究では第1回目の継続的な看護技術の提供のための派遣授業の実施についてその経過と内容振り返りを行ったので報告する。

【方法】優先順位の高い分野である小児看護学、基礎看護学、母性看護学における提供可能な技術を選択し「海外出張講義・演習科目」のシラバスを作成する。

ホンバン国際大学のニーズや意見を反映した内容とする。先方の大学と調整を行い、日程が確定次第、海外研修を実施する。資料に関してはベトナム語への翻訳を依頼し、講義・演習に関してはホンバン国際大学の日本語学科教員の通訳を依頼し、協力のもと「海外出張講義・演習科目」をホンバン国際大学看護学科の学生を対象に実践する。対象学年については可能な学年を設定する。

### 【結果】

実施日：2016年3月15日（火）10:30～

場所：ホンバン国際大学 看護学科講堂

講義対象者：ホンバン高裁大学看護学生1～4年 150名  
講義テーマ：

#### 1. 基礎看護学：日本の感染予防対策



ベトナムの学生の手洗い



手洗いのチェック

#### 2. 母性看護学：先天性股関節脱臼の予防

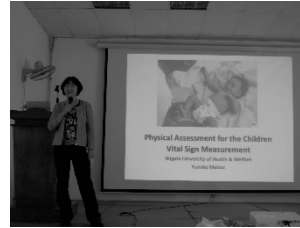


新生児の基本姿勢



おむつのかえ方実演

#### 3. 小児看護学：子どものフィジカルアセスメント



子どもの全身観察



本学学生によるデモ

【考察】基礎看護学の手洗いの演習は、ホンバン大学の学生は非常に積極的に手を挙げて手洗いチェックの実践に協力的に参加した。ベトナムでは感染管理は病院で最重要課題であるが、感染管理のシステム化は進んでおらず、手洗い法などが実践されているのみであった。

股関節脱臼の予防に関しては質問が多く、ベトナムでも先天性股関節脱臼は多いが、発見が遅いということであった。その原因として日本のような健康診査の制度がないことでよほど困ったことがなければ受診することがなく発見されないことも多い。おむつは日本製と変わらず股おむつが一般的に使用され、後天性股関節脱臼の原因となる三角おむつなどは使用されていないようであった。

子どものフィジカルアセスメントでは呼吸の聴診についての質問があった。ベトナムでは体温測定は実施されるが、看護師が聴診を行うことはなく、バイタルサイン測定では呼吸や心拍（脈拍）の数や性状も観察されていない。酸素飽和度測定もまだ使用されていないようであった。ベトナムはバイク社会であり、排気ガスによる子どもの呼吸器疾患も多く肺炎など死亡することが多い。今回の3つの授業は最も要望の高いテーマ設定なので、内容については非常に興味を持って教員・学生からの反応も良かった。

課題としては、日本語学科の先生に説明を同時通訳していただいたが、スライドのベトナム語版が間に合わず、少し伝わりにくい部分があったことである。スライドを事前に早く翻訳して準備する必要があると思われた。また、当初は演習授業を予定では小規模クラスで行う計画であったが小クラスの設定は難しいようであった。浅永<sup>1)</sup>によるとベトナムの看護教育では実習の割合がそう時間の半分以上を占め、小クラスの座学はあまり実施されていないようであった。今後も大クラスでの講義が予測される。

### 【結論】

- 3領域の各テーマは要望が高かっただけに積極的な参加や質問も多く、学生の興味を引くものであった。
- 小クラスは設定が難しく大講義室での授業となった。

### 【文献】

- 1) 浅永恭子ら：ベトナムにおける看護教育の現状と看護師の役割—N看護大学での調査より、金沢大学つるま保健学会誌, 38(2) : 39-43, 2014.

本研究は平成27年度新潟医療福祉大学研究奨励金の学長裁量費の助成を受けて実施した。